

宣誓口述書

證人「ブツ ギン、チヨグドン」

一九四六年十二月六日 於「ウランバートル」

九時十五分訊問開始

Doc. 3157

余蒙古人民共和國內務省國家保安管理局審理
部長「サムブ」中佐ハ本日證人トシテ「ブツ ギン、チヨグ
ドン」一 一九二五年、蒙古人民共和國「オドソーンヌール、ア
イリ」^{アムルソソ}第七「バグ」ニ生ル。

農民出身。「ハル」蒙古人、妻「ツェンケル」。
長男「バサントルジ」三才、中等教育終了。蒙古人民
革命黨員。前科無シ。蒙古人民共和國內務省國
境警備隊ニ勤務、現在ニ在ル。

兵卒ヨリ國境警備隊哨所長ヲ經、蒙古人民共和國
內務省「ハルビン」國境警備隊長トナル。

身分一少佐、一九三九年「ハルビン」ニオケル戦功ニヨ
リ蒙古人民共和國政府ヨリ「軍事赤旗」勳章、「北
極星」勳章ヲ授與サル。後ニ蒙古人民共和國政府
ヨリ「軍功」勳章、「ハルビン」戦斗参加、「抗
勝」ヨリ「日本ニ對スル勝利」蒙古人民共和國二十
五年「等」記念章、ナリトニ功勞內務部員、徽章
ヲ授與サル。現在蒙古人民共和國內務省「ハルビン」
ニ國境警備隊長、勤務地ニ在ル。

證人「ブツ ギン、チヨグドン」ニ對シテハ不正陳述、

No. 1

Doc. 3157

聞スル蒙古人民共和国刑法第一二三條ニ基キ生ズル責任ニツイテ申シ渡シテアリ。

「ブツギン・ナヨグドン」

問 貴方ハ蒙古人民共和国内務省「ハルビンゴル」國境警備隊ニ何時、如何ナル職務ヲモツテ勤務シテイマシタカ。

答 蒙古人民共和国内務省「ハルビンゴル」國境警備隊ニ私ハ最初ハ兵隊トシテ最後ニハ國境警備隊長トシテ色々職務ヲ遂行シタカラ一九三八年十月ヨリ一九四六年十月迄勤務シテイマシタ。

問 一九三九年ニハ貴方ハドウナル職務ヲ遂行シテイマシタカ。

答 一九三九年ニハ私ハ「サングリン・ツガン・ヌール」湖國境警備隊哨所、哨所長デシタ。

問 一九三九年ニ貴方が指揮シテイタ國境警備隊哨所ハ何所ニ在リソノ哨所、区域内、國境線ハ何所ヲ通ツテイマシタカ。

答 私ノ勤務シテイタ「ハルビンゴル」國境警備隊哨所ハ一九三九年六月五日迄ハ國境線西方三十料、「サングリン・ツアガン・ヌール」西方一料ノ地點ニ在リマシタ。一九三九年六月五日附、司令部、命令ニヨリ「ハルビンゴル」國境警備隊哨所ハ一九三九年六月七日「アラツドウリイン・オボ」南西一料ノ地點ニ移動シマシタ。我哨所区域内ノ國境線ハ

No. 2

doc 3157

No. 3

「吾スウイニオボ」カラ直線、北方へ「アスト」ヨリ、
オボ「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、カラ直線、北西へ、
「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、

問、貴方が「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、國境警備隊
ニ勤務シテイル間ニ隣接地域ヨリ、蒙古人民共
和國ニ境、侵犯、貴方、哨所ニ対スル攻撃ヲ行
フタカド、ワカ洋洞ニ語リ下サシ。

答、私が「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、哨所ニ勤
務シテイル間ニ我哨所ハ日満部隊、或ハ日本軍
正規部隊ヨリ數回ニワタシテ攻撃ヲ受ケタリ。

例ヘバ一九三九年五月十一日、夜、私ハ「アスト」
ハ「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、哨所ニ政治部
員同志「アスト」ヨリ、長トスルニ「アスト」ヨリ、時的、

國境警備哨所ヲ派遣シタリ。一九三九年五月十一日、
朝ハ時頃、重機、輕機、小銃、手榴彈、ヲ武装
シタ日満騎兵隊約三〇名ヲ、貨物自動車ヨリ、
「アスト」ヨリ、オボ「アスト」ヨリ、哨所ニ侵入、國境ヲ
越エテ我哨所ヲ攻撃シタリ。

ニ、部隊、偵察隊ト、戦斗ニオケテ哨兵「アスト」
手榴彈、小銃、ヲ用テ戦死シタ兵「アスト」
ハ重傷シタリ。尚軍ニ三頭ガヤレタリ。

優勢ニ敵、攻撃ヲ受テ、我哨所、蒙古領ニ内
奥深ク後退シタリ。日満軍ハ我領ニ内ニニ。計

40

[illegible]

Doc 3/57

一九三九年五月十五日朝一〇時頃、東方から日本軍爆撃機が飛来し、国境ヲ越エテ、約三十軒我領内ニ入り、スプリング・ツア・カニ・ヌール湖地区、我哨所ヲ爆撃シテ、爆弾六十五ヶヲ投下シ、低空飛行テ我哨所ニ機銃掃射ヲ行イマシタ。

爆撃並ニ機銃掃射、結果着護助監「バド」トム・バイル・グニオールハ戦死シ兵二十五名が負傷シマシタ。

一九三九年五月十五日 一七時、国境警備哨所「ラット・ウリイニ・オボ」地区ニ於テ戦車一台、装甲自動車七台ヲトモナリ、日滿聯兵ニテ聯隊、越境ヲ報告ニテ来タシタ。上記部隊ニ續イテ貨物自動車九〇台ニ乗乗シ、日本歩兵部隊が同地区ヲ越境シマシタ。

越境部隊ハ蒙古人民共和国領内ヲ「ヌリン・オボ」ニ向ツテ前進シ、一九三九年五月十四日越境シ「ウニグル・オボ」「ヌリン・オボ」線ニ在ル日滿部隊ニ合流シマシタ。

優勢ノ敵攻撃ヲ受テ、我國境警備隊、隊備軍ハ、此「ゴリノ」沿岸ニ後退シ、タガ滿正規軍部隊、増援ヲ得テ五月、終リニ日滿部隊ハ、国境外ニ撃退セシメテ了リマス。

No. 5

一九三九年五月十五日より二十八日迄、期間「スプリング・ツア・カニ・ヌール湖地区」ニ於テ我哨所ニタイニテ連續日ニ數回ニツタリテ爆撃ノアツタリテ證言スル必要ガ

Doc 3157

No. 7

一九三九年六月二十九日、朝十時頃國境ヲ監視中、哨所番兵、隣接地域ヲ騎兵團約三〇騎ガ、トウライニ、トホシ山南北ニ軒、地良テ國境ヲ越エ哨所ニ向テ前進中ト見ユルヲ發見シタ。番兵ニ報知シテ報告シタ。警報ヨリ哨所官、防備姿勢ヲトキタ。上記、騎兵團、哨所前方約一〇米、哨所ト下ニ、哨所ヲ攻撃シタ。交戦、結果我ニ日本兵一名ヲ射殺シ、一名ヲ捕虜トシタ。ソレニ、走遠、擡負ニ後退シタ。哨所官、指揮下ニ國境線迄退却シ日本軍部隊ヲ追撃シタ。ソレトニ場合ニモ國境線迄ニ、又トキ、我々司令部、命令ヲ嚴守シ追撃ヲ中止シタ。戦死、及、捕虜トシタ兵隊、日本人アリ、日本正規軍、服装ヲシタ。我々哨所ニタス、日本正規軍地上部隊ヲ撃トシタ一九三九年六月二十九日カ、我々哨所ニ付ル日本航空部隊、攻撃ガ頻繁ニシタ。一九三九年六月三十日、朝十時頃、我々哨所ニ、トホシ北國三省ニ位置シタ國境警備哨所、隣接地域ヨリ、タニタニ、スルニ向テ道路ヲ國境ニ向テ日本軍戦車、装甲自動車四台ヲ先頭トシ正規部隊ヲ行進シテ、トウライ報告シタ事ニシタ。戦車、後ニ約一聯隊、歩兵、ソレ後ニ兵ニ引カセテ砲ガ

Doc 3/57

續イイニシタ。報告ヲ受ケトテ。私ハ哨所ヲ防備
隊形ニ置キ、自身ハ政治部員ト共ニ監視哨ニイ
テ敵軍縦隊、望遠鏡ヨリ監視ヲ行ハシタ。
監視、結果私ハ上記、縦隊ガ我哨所ニ向テ
前進ニイキルニトテ確信ニシタ。約一杆、距離
カラ私ハ灰色、夏服ヲ着、日本正規軍、軍帽
ヲ着、軍靴ニゲトシテ卷キ、背中ニ背負
テ日本軍歩兵、行動隊形ヲ明ニ見トリシタ。ソレト
テ、一小地ニイキ。マッ戦車ガオニ蒙古人
民共和國國境ヲ突破シ、約一〇〇米、地
カラ我哨所ニ向テ機銃掃射ヲ行ハシタ。私敵
ノ數、並ニ技術、明ニ優勢ヲ見トリ、戦ヲ回避シ
哨所ト共ニ南方ニ向テ退避スルニ決定ニシタ。
上記、方向ニ退避シテ、私ハ後衛兵トシテ縦隊
ノ行動ヲ監視シ、哨所員ハ、私ハ政治部代理員トシ
テ、指揮下ニ後退シ、ソレトウリイニ一小南方
十二杆、地ニ陣地ヲ設置ニシタ。
敵監視ヲ續ケテ、私ハ戦車ニ續ケ、砲ヲ合
シ歩兵部隊モ越境シ、我哨所ヲ占領、蒙古人民
共和國領内ヲ南西ニ向テ前進ヲ續ケラレタ
確信ニシタ。

No. 8

約十二杆、蒙古人民共和國領内ニ侵入シ
上記部隊ハ、ソレニゴリ河東岸ニ陣地ヲ設置シ

No. 9

doc 3157

ソノ日、晚私に上官ヨリ命令受テ、他任務遂行
ニ移リマシタ。
コレ以上、自分証明ニ何追加スルコトハアリマセシ。
証言ハ、私言葉ヲ正確ニ記録シタモノデ、私ニ讀ミ
テ聞クサレマシタ。

訊問ハ一九四六年十二月十六日
十六時三十分終了シタ。

「テヨグドニ」

訊問者—蒙古人民共和国国内務省
國家保安管理局審理部長
「サムブニ」中佐

右通譯セリ

「ジヤルガロニ」

通譯者「ジヤルガロニ」署名ヲ証明ス

蒙古人民共和国国内務省書記官

中尉「オケルター」

一九四六年十二月十六日

官印

Doc 3157

附 録

余 下記署名、「アムダシ、ケヨグダシ」に證人ト
シテ訊問セラルニ當リ 正確ナル證言ヲ行フコトヲ
茲ニ誓言スル
不正證言ニ關スル蒙古人民共和國刑法第二二三
條ニ基キ生ズル 責任ニテ予ニ申シ渡サレタリ

「アムダシ、ケヨグダシ」

一九四六年十二月六日

右通譯セリ

「シャルガロシ」

「シャルガロシ」通譯、署名ヲ証明ス

蒙古人民共和國內務省書記官

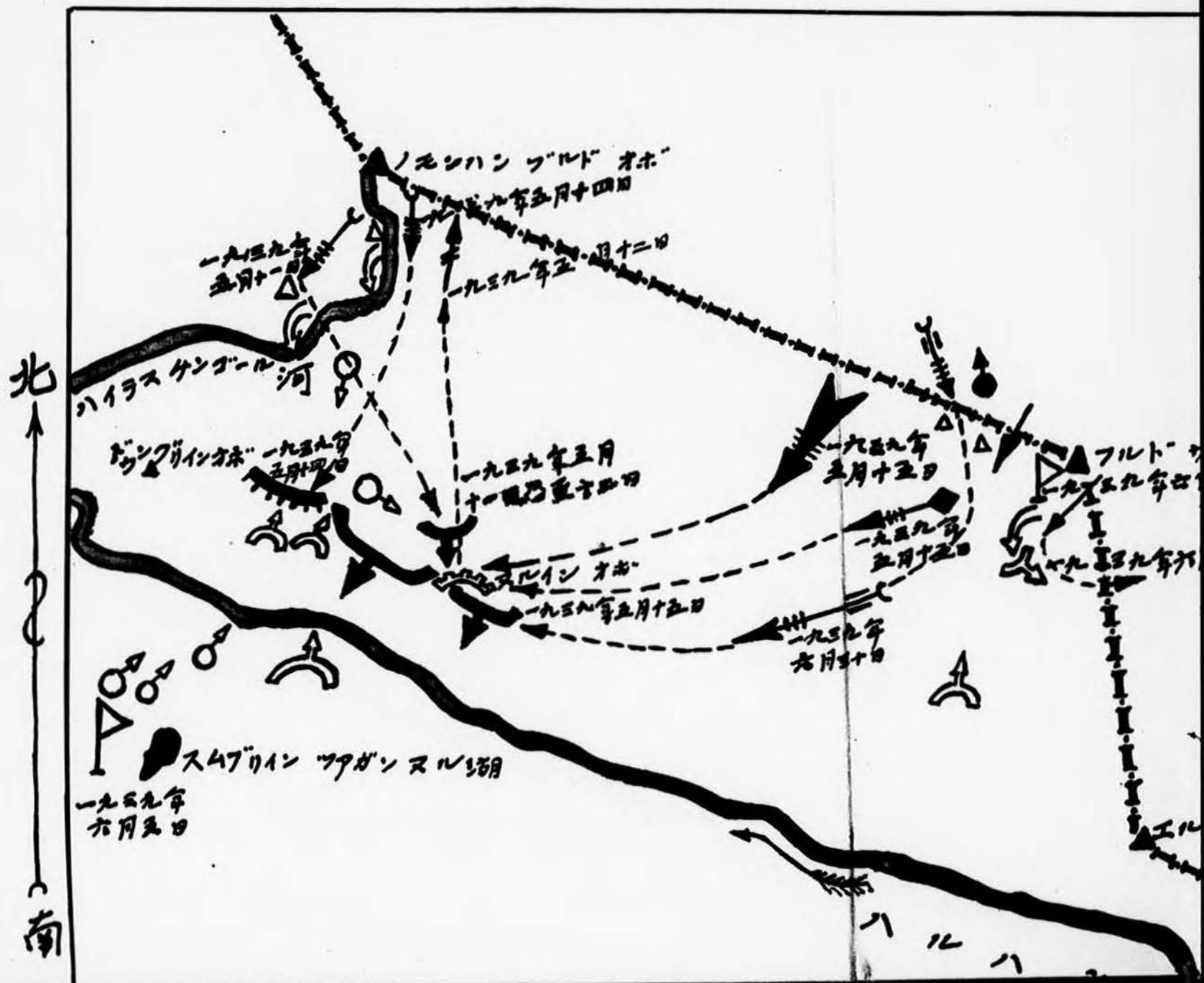
中尉 「ケヨグダシ」

一九四六年十二月六日

No. 10

證人ヲグドン、證言ニ附屬、要圖

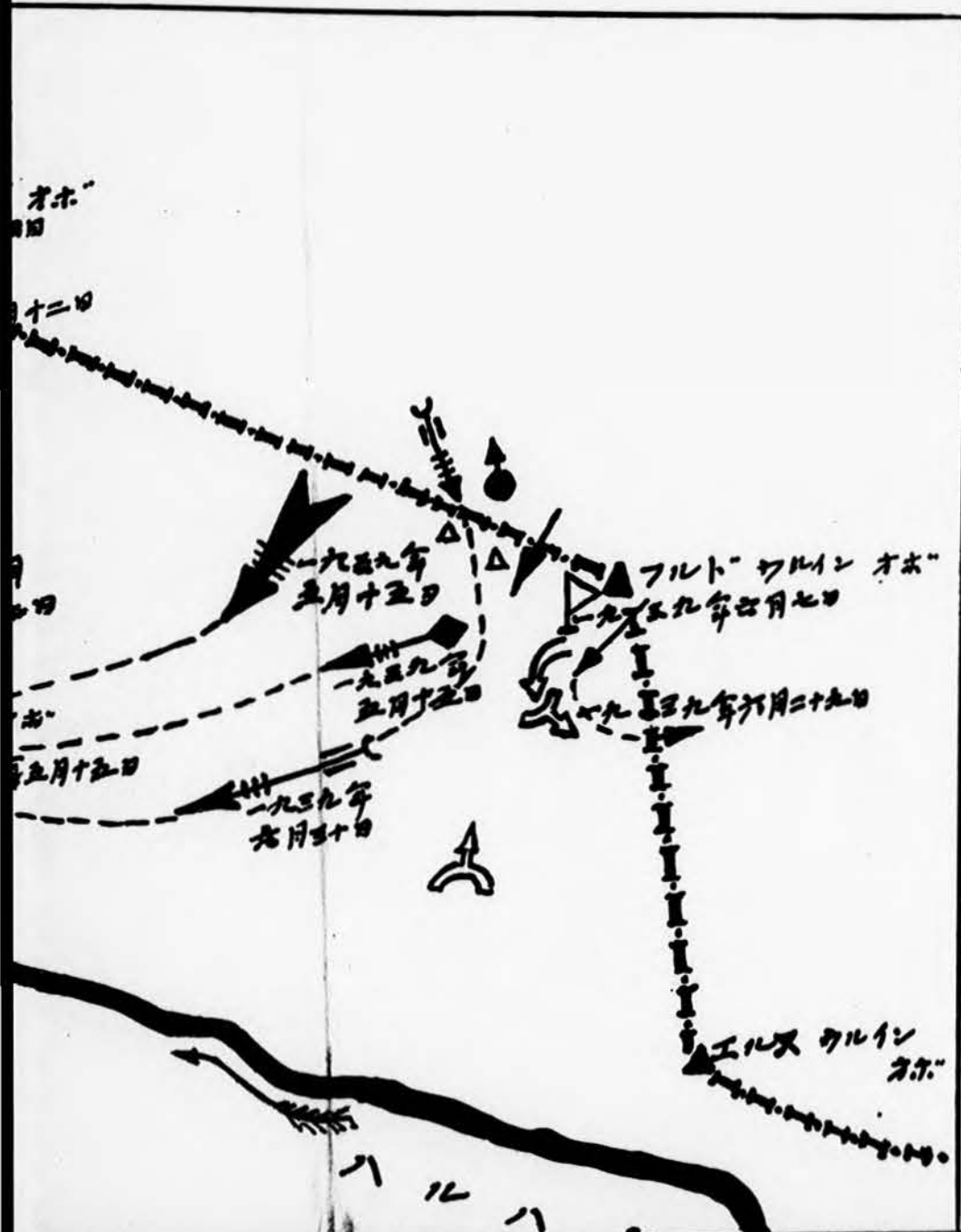
一九四六年十二月六



Doc. 3157

証言 = 附属、要圖

一九四六年十二月六日



南

凡例

縮尺二十萬分、一
2 0 2 4 6 8 10

— · — · — 國境



國境監視哨



國境警備班



國境警備部隊、防禦



國境警備班、行動



國境警備班及監視哨、退却



砲兵ヲ以テ補強セラル日本歩兵聯隊



戰車及裝甲車ヲ以テ補強セラル日本騎兵聯隊



自働車九十臺ヲ以テ侵入セラル日本歩兵部隊



三百名ヨリ成リ一九三九年五月十一日侵入セラル日本騎兵部隊



一九三九年五月十四日侵入セラル日本二個騎兵聯隊



日本偵察部隊



一九三九年五月十五日、十六日及十七日蒙古人民共和國領域・侵入依リテ右領域セラル防禦線。

ハルハ河

縮尺二十萬分の一
2 0 2 4 6 8 10

自分、証言ニ依るトレコ要圖ヲ
作成セリ 證人少佐 今ヨグドン。

三
隊、防禦
ヲ行動
監視哨、退却

ハルハ日本歩兵聯隊

補強ハルハ日本騎兵聯隊

ヲ侵入セタル日本歩兵部隊

五月十一日侵入セタル日本騎兵部隊

ヲ侵入セタル日本二個騎兵聯隊

十六日及十七日蒙古人民共和國領域、侵入セタル日滿軍、
防禦線。

凡例

縮尺二十萬分、一
2 0 2 4 6 8 米

自分
作成

—+—+—+— 國境



國境監視哨



國境警備班



國境警備部隊、防禦



國境警備班、行動



國境警備班及監視哨、退却



砲兵ヲ以テ補強セラル日本歩兵聯隊



戰車及裝甲車ヲ以テ補強セラル日本騎兵聯隊



自動車九十臺ヲ以テ侵入セラル日本歩兵部隊



三百名ヲ成リ一九三九年五月十一日侵入セラル日本騎兵部隊



一九三九年五月十四日侵入セラル日本二個騎兵聯隊



日本偵察部隊



一九三九年五月十五日、十六日及十七日蒙古人民共和國領域・侵入シテ
依リテ右領域セラル防禦線。

縮尺二十萬分の一
0 2 4 6 8 料

自分、証言=作属トレコ要圖ヲ
作成セリ 證人少能クヨクドン。

表、防禦
行動

監視哨、退却

日本歩兵聯隊

市強カタル日本騎兵聯隊

侵入セタル日本歩兵部隊

五月十一日侵入セタル日本騎兵隊

侵入セタル日本二個騎兵聯隊

六月及十七日蒙古人民共和國領域・侵入セタル日滿軍:
防禦線。